

睦子先生



伝承の地である霧島神社に参拝する児童

### 土々呂小と名水小

## 霧島神社にまつわる民話学ぶ

### 見学とアニメーション鑑賞など通し

延岡

延岡市土々呂町の霧島神社にまつわる民話「琴姫の松」のアニメーション上映会が8日、土々呂小学校（久保田剛史校長、286人）であった。同校と名水小学校（島田尚校長、11人）の5、6年生110人が民話の語りや霧島神社の見学などを通し、地元に残る民話について学んだ。

「琴姫の松」は、霧島神社の森にかつてあった大きな松の名前。風で葉が揺れる音が琴を弾いているように聞こえ、漁に出掛け

る前に村の人々は必ず手を合わせ、海の安全を願っていたという。

ある日、村人が漁に出ると船が浮かんでおり、中には琴の傍らに1人の娘が横たわっていた。娘を連れ帰り、何日も看病したが娘が話すことはなく、村人は「琴姫さま」と呼ぶようになった。

ある日、夜中に大地震が起き、大津波が押し寄せて来た。村人が避難する中、娘は一心

に琴を奏で、自分の髪に挿していたくしを津波に目掛けて投げ捨てた。美しい琴の音に合

わせるように津波は引いていった。夜が明けると娘の姿はなく、村人たちは「琴姫さまは松の木の精だったんだ」と言い、大きな松を、より一層大切にしていた。

この日は、地域に伝わる民話の伝承に取り組んでいる一延岡の語り部・萌（もえ）ぎの



りょうたさん

霧島神社境内で地域の人たちの話を聞く児童



姫田さん

りょうたさん

みゆきさん  
あゆみさん  
かりなさん

アニメーション上映会に参加した児童ら

会（山内文代会長）の山内会長らが民話を披露。海と日本プロジェクトの一環で昨年完成したアニメーションを鑑賞した。

その後、5年生56人は霧島神社に移動。物語にちなみ、神殿で伊東美穂子さん（74）が琴を奏でる中、土々呂地区区長会の河野時徳会長（75）や近くに住む池田見一さん（93）ら6人が、神社の伝承や津波の備えなどについて話した。

このうち池田さんは「琴姫の松」の複数の場面を描いた自作の絵を見せながら、松の木はおよそ27メートルの高さがあったこと、直径が4メートルあったこと、今から約80年前の台風で倒れてしまったことなどを紹介。貴重な話を語り継いでいって」と呼び掛けた。

土々呂小の松田陵汰さん（10）は「こんな物語があるのかと分かった。家族に伝えた」と感想。合同学習のため、前日から同じ教室で学んだ名水小の松本風さん（11）は「みんなと仲良くできて、たくさん話せてできて良かった。民話をいろんな人に伝えたい」と話した。